



—北アフリカ地域ニュース—

リビア：イタリアとの関係

(8月29日付ロイター通信)

8月29日付ロイター通信は、リビアとイタリアとの関係に関し、次のように報じている。

1. 8月29日、カダフィ指導者は、2日間の日程でローマを訪問した。今回の訪問は、リビアがイタリア経済に対する影響力を強めていることについて、関心と論争を喚起している。カダフィ指導者は、宿泊のためのテントを張り、8月30日に開催される馬術ショーにおいて、ベルルスコーニ首相と会談することとなっており、このショーのために馬30頭を用意している。
2. リビアがイタリア経済に対する関心を強めており、特にイタリアの大手銀行であるユニ・クレジットの株式約6.7%を所有していることには批判がある。北部同盟（注：伊国における地域政党連合で、ベルルスコーニ政権の与党連合。移民排斥を主張している）の議員は、リビアによる投資を批判しており、市場監査を行う Consob による調査を要求している。反対派の議員も、ベルルスコーニ首相が、人権について専制的であり、伊国に密航しようとする不法移民をリビアに送還することを認めているカダフィ指導者と密接な関係を有していることを攻撃している。
3. 今回のカダフィ指導者のイタリア訪問は、2008年、カダフィ指導者とベルルスコーニ首相が、イタリア植民地時代の補償としてリビアに50億ドルを支払うことに同意して以来、4回目となる。両国の経済関係は強まっており、イタリアは、リビアが石油および天然ガスを売却する最大の貿易相手国となっている。ユニ・クレジットの株式を保有することと同様、リビアは伊石油会社 ENI および伊電力会社 ENEL に対する関心を表明している。今回のカダフィ指導者のイタリア訪問は、2008年のリビア・イタリア友好合意の2周年を記念するためのものである。